

家庭菜園相談室

今月の
テーマ

「和・洋・中、どんな料理にも
相性抜群！～インゲンマメ～」

インゲンマメは、若いさやごと食べるサヤインゲンが特になじみが深く、つるを伸ばす種と、背丈が低く手軽に栽培できるつるなし種があります。緑色が美しく、料理の彩りとしても重宝する野菜です。病害虫の心配も少なく、花もかわいらしいので家庭菜園におすすめです。



安目型作

	6月	7月	8月	9月	10月
インゲンマメ	● (つるあり)	(つるなし) ●	● ●	● ●	▲ ▲

● 種まき

●——● 適宜種まき可能

●.....● 生育期(支柱立て・追肥)

▲ 收穫時期

栽培のポイント

○連作障害を防ぐため、豆類を栽培した畑では2～3年間隔を空けて作付けしましょう。

○つるなし種は、種まきから短期間で一斉に収穫できます。一方でつるあり種は収穫期間は長いですが、種まきから収穫まで日数がかかるので、なるべく早くまいて夏季の暑さを避けましょう。

畑の準備

植え付けの2～3週間前に完熟堆肥1^{kg}/㎡、苦土石灰100^g/㎡をまき、深さ30^{cm}位までよく耕します。植え付けの1週間前には化成肥料(N:P:K=8-8-8) 150^g/㎡を施し、よく耕しておきます。

つるあり種の場合は畝幅90^{cm}・畝高10^{cm}、つるなし種の場合は畝幅70^{cm}・畝高10^{cm}の畝を作ります。

種まき

つるあり種は株間30～40センチ、つるなし種は株間25～30センチとし、深さ2センチほどの穴を掘り、種を1カ所に3粒ずつまきます。種の大きさの3倍ほどの土をかぶせ、軽く手のひらで押さえます。

鳥除け及び虫除け、乾燥防止などのため、不織布で畝を覆いその上からたっぷりと水をかけます。本葉が出始め、子葉がしぼむ頃まで不織布はかけておきます。

間引き

発芽が揃ったら、1本を間引いて1カ所2本にします。生育の良いもの、子葉の形の悪いもの、虫食いや病気の疑いがあるものなどを間引きます。

支柱立て

つるあり種は、つるが伸び始めたら支柱とネットを立てます。支柱は垂直で良いですが、風当たりが強いところでは合掌式が良いでしょう。支柱を立て終わったら、巻きひげが絡みやすいように、ネットを支柱に張ります。ネット張りが遅れると隣のつると巻きついてしまうので遅れないようにします。

キュウリ用の網支柱を用いるとつるが自然に絡まっていくのでおすすめです。

追 肥

つるあり種は、本葉5枚の頃と収穫最盛期の頃に、株の周りに化成肥料(N:P:K=8-8-8)を50g/㎡施し、中耕と除草も兼ねて土寄せを行います。

つるなし種は栽培期間が短いため基本的に追肥は不要です。

收穫

つるあり種は種まき後50～60日、つるなし種は種まき後50日程度で収穫を迎えます。開花後、10日～2週間ほどで収穫できます。長く置くと樹勢が弱まるので早めに収穫します。さが平たい平さや種は、多少収穫が遅れても柔らかいですが、丸さや種は長くおくと硬くなりやすいので、大きくないうちに収穫しましょう。

病虫害

アブラムシやハダニ、カメムシが発生することがあるので、防除します。サヤインゲンであれば農薬は「さやいんげん」、「豆類(未成熟)」**」、「野菜類」**に登録があるものが使用できます。

その他、家庭菜園に関する相談は、JAの支店または営農経済センターまでご連絡ください。